

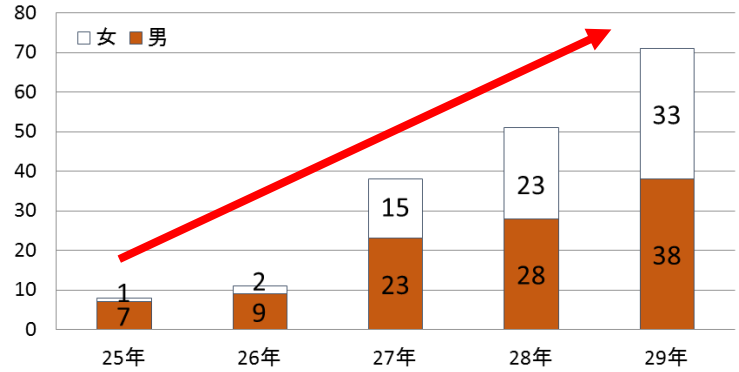
もしかして梅毒・・・??

と思ったら、一度検査を受けてみませんか。
京都市では**夜間**や**土日**にも検査を実施しています。

近年、全国的に梅毒の報告数が増加しており、平成 29 年の全国の梅毒患者報告数は 5,770 件でした。

京都市においても、平成 29 年に **71 件**の報告があり、平成 25 年と比較すると、**約 9 倍**に増加しています。

年代別の報告数は **20~30 歳代**が多く、全体の約 7 割を占めています。



検査はどこで受けられる？

場 所：下京区役所（医療衛生コーナー） 又は 京都工場保健会

内 容：HIV、性感染症（梅毒・淋菌・クラミジア）

検査方法：血液検査、尿検査

そ の 他：無料、匿名

詳しくは検索してください。

京都市HIV

検索

梅毒ってどんな病気？

<原因菌>梅毒トレポネーマ <感染経路>性行為など、体液や血液と接触することで感染
<症 状>感染後、経過した期間により症状が異なります。

1 期、2 期、晩期の間一旦症状が消えますが、症状がない期間でも他人にうつしてしまったり、放置すると病状が進行してしまいます。

また、妊娠中に感染すると、死産や早産、新生児死亡の原因になったり、赤ちゃんに重い障害が残ることがありますので、**検査で感染の有無を確認し、早期に治療をすることが大切です。**



1 期：感染後約 3 週間

- ・感染部位のしこり（主に陰部、口唇部、口腔内）
- ・股の付け根のリンパ節の腫れ

一旦症状が消える

2 期：感染後数か月

- ・バラ疹（手のひら、足の裏、体全体にうつすらと赤い発疹が出ます）

一旦症状が消える

晩期：感染後数年

- ・皮膚や筋肉、骨などの腫瘍
- ・心臓、血管、脳などの複数の臓器の病変

感染するリスクを減らすために

コンドームを正しく使用することで感染のリスクを減らすことができます。

いつもと違う症状が現れるなど、感染が不安なときは、早めに検査を受けましょう。